

第7回「バリ民主主義フォーラム」における中根政務官スピーチ

平成26年10月10日

1. 冒頭

ユドヨノ大統領閣下，
ハサナル・ボルキア国王陛下，
アキノ大統領閣下，
グスマン首相閣下，
マルティ外務大臣閣下，
御列席の皆様，

第7回を迎える「バリ民主主義フォーラム」に，日本政府を代表して参加できることを大変光栄に思います。第1回から一貫してこの場に参加し，アジアや世界の民主化という重要な課題を議論してきた日本にとって，このフォーラムが世界に開かれた場として年々拡大していることは大きな喜びです。

主催国インドネシアが，幾多の困難を乗り越えて民主主義を確立し，本フォーラムなどの取組をもって各国の民主化の進展に貢献していることを高く評価します。また，このフォーラムを設立し，長きにわたって主導してこられたユドヨノ大統領の強いリーダーシップに，心から敬意を表します。

2. 日本の外交方針と民主主義

本日のスピーチを，日本自身の経験を振り返ることから始めます。

日本は，戦後の歩みを，平和への誓いを新たにすところから始めました。以来，平和国家として，自由，民主主義，基本的人権，「法の支配」といった普遍的価値に重きを置き，これを不断に培うことで，国民が平和と幸福を享受する豊かな社会を築くとともに，アジアを始めとする国々に開発・民主化等の支援を行ってきました。

戦後70年近く一貫してきたこのような姿勢を土台に，いま，日本は国際協調主義に基づく「積極的平和主義」を掲げ，地域の平和と安定に対して一層積極的に貢献する取組を進めています。普遍的価値を共有する国々と連帯しながら，自由，民主主義，そして「法の支配」を促進し，グローバルな課題に積極的に貢献しています。

このことは例えば、つい先日の国連PKOに関するハイレベル会合で安倍総理大臣が表明した具体的貢献策に体现されています。同じ国連の場で、日本は、ウクライナ支援、エボラ出血熱との闘い、気候変動問題への貢献など、他にも多くの取組を打ち出しました。

こうした地域や国際社会の課題に取り組んでいく上で、ASEANとの協力の重要性を強調したいと思います。日本とASEANは、昨年、友好協力40周年を祝う特別首脳会議の際に打ち出した4つの柱からなるビジョン・ステートメントに沿って、いま、一層の協力強化を進めています。また、今年の本フォーラムのテーマ「進化する地域の民主的アーキテクチャー」は、来年のASEAN統合に向けて正に時宜を得た重要なテーマですが、アーキテクチャーの強化をドライバーズ・シートに座って実現するのは、ASEAN自身です。日本は、EAS強化を含め、この点でも、ASEAN各国と一層緊密に連携していきます。

3. 世界各国の民主化状況と日本の民主化支援

ここからは世界に目を転じ、三つの切り口から、世界各国の民主化状況と日本の取組について申し上げます。

(1) アジア

一点目は、アジアの平和構築と民主化です。

世界の成長センターたるこの地域の一層の繁栄を支えるためにも、今後も、民主化に向けた潮流を一層押し進める努力が不可欠と考えています。

インドネシアの経験は、そのような努力の重要性を劇的に示しました。ユドヨノ大統領の指導の下で、2005年のアチェ和平の達成も含めて、国内の政治・治安状況は安定しました。「多様性の中の統一」との国是の下、世界屈指の多元社会が、世界有数の民主主義国家として発展し、経済的にもG20メンバーになるまでの躍進を遂げたのです。報道の自由の確保、市民社会との対話といった努力を通じ、民主主義は今や国民に完全に根付きました。2004年及び2009年に続き、約1億9千万の有権者が参加した本年の議会総選挙・大統領選挙が円滑に実施されたことは、そうした努力の一つの集大成であり、改めて祝意をお伝えしたいと思います。日本は

今後、戦略的パートナーとして、インドネシアが、民主化の推進を含む地域や国際社会の課題に積極的に貢献するよう、一層緊密に協力していきます。

他にも、ミャンマーが、民主化・国民和解・経済改革に向けた努力を続けています。日本は、笹川陽平国民和解担当政府代表と共に少数民族との和平に向けた支援を行っているほか、2015年に予定される総選挙も見据えて、改革の更なる進展を後押ししています。

タイでは、新政権が、様々な国内改革と、国民和解の増進への目標を掲げ、これに向けて取り組んでいます。日本は、新政権との意思疎通を強化する中で、民主体制の早期復帰を後押ししていく考えです。

日本はまた、日本が最初にPKOに参加したという意味で「積極的平和主義」の原点の地とも言えるカンボジアに対しても、法整備支援等を通じて民主主義の定着に貢献してきたほか、選挙改革支援でも協力していく予定です。私自身、これまで地元埼玉のNPOと共にカンボジアを訪問し、教育支援に関わってきました。

これらの取組のとおり、今後も「積極的平和主義」の立場からこの地域の平和構築や民主化を官民挙げて支援し、地域の平和と安定に一層積極的に貢献します。

(2) 女性

二点目として、少し角度を変えて、民主主義を支える力としての女性の重要性についてお話します。というのも、女性の活躍は民主主義が機能する上で不可欠の条件であり、また、民主化の過程で、しばしば女性の権利の保護や促進が重要な課題となるからです。

日本は、「女性が輝く社会」の実現を政権の最重要課題の一つとして掲げ、国の内外で様々な取組を進めています。先月には、インドネシアのノニ・プルノモさんを始め国内外から約100人のリーダーを招いて国際シンポジウム「WAW! Tokyo 2014」を開催し、女性の活躍に向けた具体的な提案を世界に発信しました。

また、昨年、①女性の社会進出を進め、その能力開発を行うこと、②女性を対象とした保健医療分野の取組に注力すること、そして③紛争下の性的暴力の防止という3つの柱の下、3年間で30億ドルを超す支援をコミットしましたが、これまでの1年間で既に半分以

上の18億ドルを実行しています。今後も、国内外において女性の活躍促進に向けたイニシアティブを進めていきます。

(3) 中東

三点目として、多様性に加え寛容性を旨とするここインドネシアにおいて、中東情勢についてもお話しします。

残念ながら、現在、中東地域は動揺のただ中にあると言わざるを得ません。^{アイシイル}ISILの活動は国際秩序に対する重大な脅威であり、地域の人道危機に迅速に対応すると同時に、過激主義の定着を阻止することが必要です。日本はその一助として、中東地域安定化のため新たに5000万ドルの緊急支援を直ちに実施することを決定したところです。今後も可能な限りの支援に、国際社会と連携して取り組んでいきます。

また、今後とも、経済的繁栄の下で地域の平和と安定を実現してきたアジア諸国の経験を、中東諸国と積極的に共有していきます。

パレスチナ開発のための東アジア協力促進会合(C-E-A-P-A-D)は、こうした観点から日本が立ち上げた枠組みであり、本年3月、マルティ外務大臣を共同議長としてインドネシアで第2回閣僚会合が開催されたことを高く評価しています。今後もインドネシアを始めとするアジア諸国と連携しながら、中東諸国の民主化に向けた支援を続けていきます。

4. 結語

民主主義の発展に国民一人一人の積極的参加が不可欠であるように、日本も、この意義あるフォーラムの発展に今後も積極的に協力していきます。日本は2009年から、公正な選挙がアジアで根付くよう、各国の選挙実施に携わる方々を招へいして民主主義や日本の選挙制度について研修してもらう「選挙訪問プログラム」を実施しています。本年も、この9月に、ASEAN各国と東ティモールから50名を超える方々がこの研修に参加しました。「完璧な民主主義はどこにも存在していない。民主主義は、終わりなき旅とってよい。」6年前、ユドヨノ大統領は第1回のフォーラムでこう述べられましたが、このフォーラムが、今後もその旅の前途に貢献できる

よう、引き続き助力を惜しみません。

最後に、日本として、ASEANや地域の各国の皆様と協力して、アジアを始め世界各国の民主化を更に後押ししていくことを改めて申し上げて、私のスピーチを終えたいと思います。ご清聴ありがとうございました。